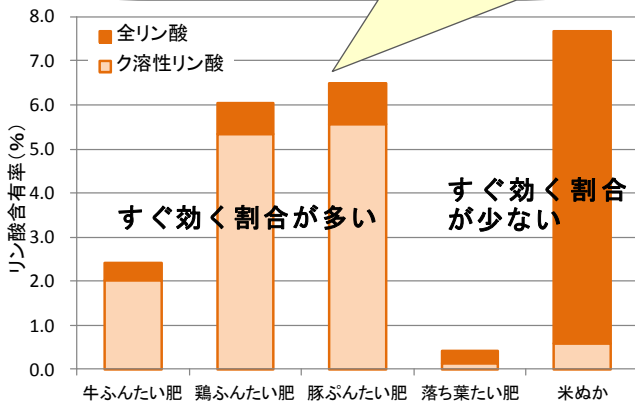


たい肥はカリ成分に留意して効果的な利用を！

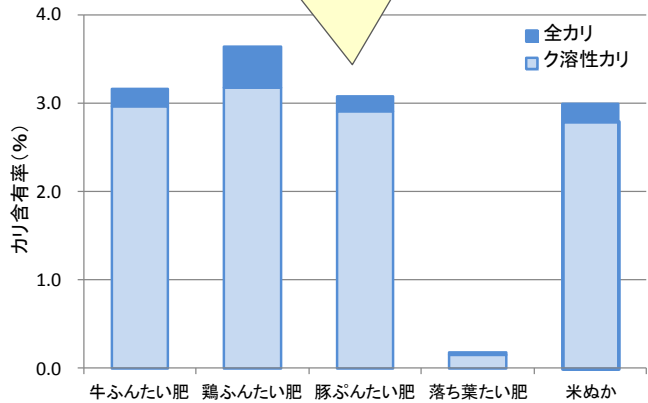
たい肥は、過剰施用するとリン酸やカリが土壤中に多く蓄積し、作物に病気が発生しやすくなります。

たい肥や有機質肥料に含まれるリン酸やカリの有効成分について調査したところ、これらに含まれるカリ成分のほとんどは肥料として効く成分であることがわかりました。このため、標準施肥量のカリ成分をたい肥中のカリで代替し、窒素やリン酸の不足分を化学肥料で補う施肥法を検討したところ、収量性は化成肥料とかわりなく、土壌への過剰なカリ蓄積を防ぐことができました。

リン酸成分は肥料としてすぐ効く割合が多いものと少ないものがある

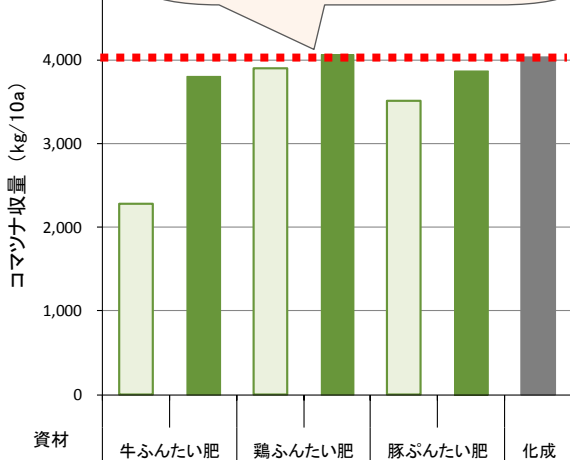


カリ成分は肥料としてすぐ効く割合が多い

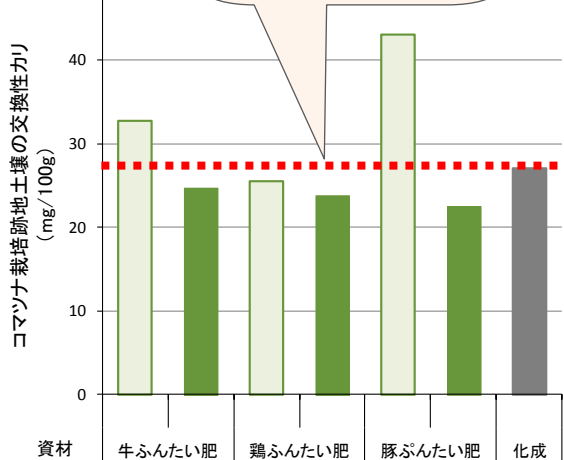


【たい肥や有機質肥料に含まれるリン酸およびカリ成分の全含有率とク溶性（肥料としてすぐ効く成分）含有率】

たい肥中のカリ成分で代替しても収量は変わらない



土壌への過剰なカリ蓄積を防げる



窒素成分で代替 カリ成分で代替 化成肥料で代替

【たい肥中の成分で代替したときのコマツナ収量と栽培跡地土壌のカリ含量】

(注) たい肥の窒素肥効を牛ふん 30%、鶏ふん 70%、豚ふん 30%で施肥設計

(農林総合研究センター 農産物安全・土壌担当 TEL 0480-21-2091)